



『葉をよく見ると』
 通年コース第一回開催報告 「樹木分類」

前日までの雨模様は何処へやら。夏のような晴天となった初回の樹木分類。種を見分ける方法は、生種の観点から識別するのが基本だそうです。なので樹木の場

合は、花や実で見分けるのがいちばん正確な方法となりません。しかし、樹木が花をつける時期は一年のうちたった数週間ですし、若い木は十年以上も花をつけないこともあ



これは単葉？

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 坂野慎治
 題字 島崎洋路

ば、大人の木でも生育条件が適さなければ何年も花をつけないことがあります。

そこで、葉の検索。樹木の葉は、一見どれも同じように見えたりしますが、例えば、葉のふちのギザギザ(鋸歯)きよし、葉の表面のすじ(葉脈)ようみやく(の入り方など様々な情報が隠れていま



検索のポイントは...

す。では、葉で見分けるにはどこを見ればいいのか。つる性が・つる性でないか、単葉か・複葉か、裂けている葉か・裂けてない葉か、枝には交互に付いているか・対になって付いているか...などなど専門用語とその意味するところを掴んで、実際に数種類の葉の和名を探してみました。検索のポイントから幾つか同定することはできたでしょうか。

アケビ・コシアブラ・ウリハダカエデ・シラカバ・ソゴ...と種が判別できると、複葉の樹にはこんな樹があるんだ、この樹も対生なんだ、ということもわかってきます。また同じ科や属にはどんな樹があるのかも調べる事ができます。例えば、ダンコウバイとクロモジは、葉の私たちは全く違うのに、同じクスノキ科クロモジ属なのです。

一通りの手順で葉っぱは検索を行った後、午前中の最後にヤマツツジ咲く小屋横の広葉樹林を散策。島崎先生が手入れを続けているサクラの森にはホウノキやハリギリ、いろいろなかエデが見られました。そして、午後は鳩吹山を散策。多くの樹木が登場し、とても覚えられないと感じた方は、自分の好きな葉の形など、興味を惹かれる樹木から覚えてみては如何でしょうか。また、樹木標本を作ってみたり、覚えた樹や覚えたい樹のリストを作ってみてはどうでしょうか。



分裂葉で対生

10時15分 鳩吹公園で、二班に分かれて、サンプル樹木の和名検索。つる性かつる性でないか、単葉か複葉か、分裂葉かどうか、葉のつき方は対になっているか、葉の縁は鋸のようになっているか、ギザギザしているか...といったキーポイントを目安に。検索用の図鑑はいろいろ出版されていますので、図書館などで借りて自分に合った図鑑を探してみてください。

通年コース 第一回
 5月9日(土)
 樹木分類

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶。オリエンテーション。
 9時40分 休憩後、早川講師による分

11時15分 ヤマツツジ咲く小屋横の広葉樹林を散策。サクラ類やカエデ類、ホウノキやリョウブ、ハリギリなどを観察。
 12時 昼食。



13 時 10 分
分乗して鳩吹山へ。
13 時 30 分

樹木散策開始。トウゴクミツバツツジやクロロモジに始まり、オオカメノキやウダイカンバ、ヤハズハンノキ、バツコヤナギなどの樹木を観察。枝を折って香りを確かめたり、葉を噛んで味見したり…。

15 時 30 分
散策を終了し、小屋へ戻る。

16 時 10 分
服装や道具、宿泊などに関する質疑応答。

16 時 40 分

講師総括。諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。

参加者 / 安部 (貴) さん、安部 (英) さん、池中さん、大槻さん、荻上さん、沖永さん、加藤さん、熊沢さん、栗本さん、島谷さん、武田さん、増田さん、村田さん、山崎さん、熊木さん、園田さん

講師 / 早川講師
スタッフ / 平林、坂野

『姿勢と方向』 専門コース第一回開催報告

今年の森林塾も専門コースの第一回目から始まりました。久しぶりのチェンソーということで、一日目は高鳥谷山麓のヒノキ林で伐木造材。ここは以前は桑畑で、植えてから二十年弱、平均樹高が約十一 m、平均胸高直径が十四 cm 程。植えたままの林は暗く下草もない、樹冠はもちろん閉鎖していて枝が絡み合うような状態。山主さんが保残木をマーキングしてくれてあり、印のない樹は伐ること。伐倒方向と受け口、スタンスの取り方、チェンソーの構え方、つると追い口など基本を思い出しながら伐倒を

進めました。

また二日目は、現場を横山キャンプ場近くに越し、樹高が約二十五 m、胸高直径が三十 cm 程度のカラマツの伐倒に挑戦しました。複数の樹について傾きを見ながら、どういう順番で樹を倒していくか、ロープやチルホールを使った牽引伐倒をするか、矢で重心移動させて倒すかを考えながらの伐倒となりました。そして三日目は、早朝からの雨により中止となりましたので、第二回目は一日追加して四日間開催することとなりました。



基本の復習から



体幹の位置と向き

専門コース第一回開催

4 月 23 日 (木)

24 日 (金)

一日目

8 時 25 分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶。現場の説明。

8 時 40 分

高鳥谷山麓のヒノキ林へ。

9 時 10 分

機材の準備、体操をして間伐開始。樹冠が閉鎖し、枝が絡み合うような状態。基本の復習 + ロープを使った牽引伐倒を行う。

12 時

現場近くのグラウンドで昼食。

13 時 10 分

間伐再開。午前中の伐倒で

出来た空間へ倒すようにする。樹の傾きがその方向でない時は、ロープを設置して。造材は 2 m。山主さんがお風呂用の薪にするそうです。

15 時 50 分

作業を終了し、小屋へ。

16 時 30 分

講師講評の後、解散。

二日目

8 時 30 分

島崎先生の山小屋に集合。早速現場へ。今日は、横山キャンプ場近くのカラマツ林。

8 時 50 分

現場到着後、機材準備、体操をして、伐倒木を確認。樹高が約 25 m、胸高直径が 30 cm 近い。どの樹からどういふ順番で伐倒をするか決めて、

9 時 20 分

伐倒開始。体の中心線が伐倒方向と九十度になるようにスタンスを取る。受け口の水平伐りと斜め伐りは連続して。

11 時 40 分

現場にて早めの昼食。

12 時 40 分

伐倒再開。矢を使った伐倒に挑戦。造材は、曲がった部分を除き、真っ直ぐの 4 m 材に。建築用として市場へ出荷されます。

16 時

作業終了し、小屋へ。

16 時 30 分

講師講評、解散。お疲れ様でした。

三日目

6 時 30 分

早朝からの雨のため中止。第二回開催を四日間とする。

次回以降の予定

第一・三回

6 月 12・13 日 (金・土)

植林・下草刈り、

伐木造材

一日目は、西春近の現場で、まず植林。その後、下草刈りです。夕方 16 時 30 分頃には、山小屋でミスホ鋼機さんにナタ・ノコなどの山道具見本市を開催して頂く予定です。

二日目は、チェンソーを使った木の伐り方。始動方法や丸太の輪切り練習、玉切り練習。受け口・つると追い口といった木の伐倒に関することを行う予定です。

二日間ともに作業の出来る支度と雨具や防寒着・タオル

などご用意願います。ヘルメットやトンガ・鎌などの作業用具は、こちらで用意しますのでご心配なく。8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

専門コース 第二回開催 7月1〜4日(水)土)

今回は、当初予定に前日

一日を加えて四日間の開催となります。前回の基本の復習とよりステップアップした方法での伐倒に挑戦してみましよう。また、傾斜地での安全確実な造材や枝払いの習熟も平行して。ご希望があれば牽引伐倒なども可能です。

四日間ともに、8時30分、島崎先生の山小屋集合です。

リレー通信

僕と森と今 池中 睦貴

僕は東京の町田で育ち小学五年生の時に学校に行くのが嫌になり、「ゴミ」ゴミした都会にも疲れてしまい家族とも仲



がよくなかったので、中学二年生の時に実家を離れ高遠にある「フリーキッズ・ヴィレッジ」にお世話になることになりました。

「フリーキッズ・ヴィレッジ」は、お米や野菜、味噌、醤油、漬物を作りながら、出来るだけ地球に負荷にならないようにいるる年齢の人や二十人前後で暮しています。

入塾当時には知らなかった僕は、フリーキッズの周りの森は木がいっぱい生えてすごいなあなんて思っていました。でも本当は手入れのされていない人工林だということを知り、そこから多くの事が見えてきました。鹿や猿たちが、民家に下りてきて畑を荒らしたりするのは、人間が勝手に人工林にして杉や檜などをぎゅうぎゅうにつめ、動物たちが食べるための広葉樹がなくなってしまうたり、それが原因で土石流などが起きてしまうなど、今まではただ木が沢山生えていけば環境にいい

とか、木を切ることは自然破壊だとか思っていたのが、今の日本の山の現状を知ってビックリしました。それから知り合いの森林組合の方やいろんな方に山の手入れの仕方を教えてもらい、チェーンソーや鉋を使い間伐や枝打ちをするのが好きになりました。小学生の時から校庭に生えている桜に登って飛び降りるのが好きだった僕にとって一番衝撃的な出会いは、二本の木の棒と一本のロープだけで枝が無い木に登れる「振り縄」に出会った事でした。

二〇〇六年に伊豆諸島の一つの御蔵島と言う、お椀を伏せたような小さな島に出逢いました。その島の周りには、野生のイルカが棲んでいるのです。御蔵島には、たくさんのおオミズナギドリがやっています。海にエサを捕りに行って森にふんを落とすために森が豊かになり、森にたくさんのお水が蓄えられ栄養豊富な水が島のおちこちから滝になって海に落ちていきます。そこに多くのプランクトンが集まり、それを目当てに集

まった魚たちをオオミズナギドリが食べ、そして山に栄養が帰って行き、またその水は雨となり森に降ってくるという、小さい島ならではの生命の循環が分かるのです。海にとつて森が大切だという事、そして森にとつて海がなくてはならない存在ということを目の当たりにしました。将来この感動と自然の大事さを次世代の子たちに伝えていきたいし、またその子たちが、次の世代に伝えていってくれたらいいな」と思い、その頃はインタープリターやキャンプリーダーになりました。という気持ちが強かったのですが、気がついたら気持ちだんだん薄れていってしまっていました。そのままなんとなく暮していたら、いつの間にかなにをやりたかったかわからなくなっていて、やる気も湧いてこなくなり、気がついたら十八歳になっていました。テレビじゃ十八歳が世界で活躍しているし、いろんな人に出会い話しを聞いていると、十八歳で世界中を旅していたり…。自分と比べて、みんな輝いているのを見ていて、ふとワーキングホリデーで海外に行って森を見てみたいと思ひ、フリーキッズの代表に話すと、「日本の森を知らないし、海外に行っても分からないんじゃない？」

と言われ、それもそうだな！と思いフリーキッズの代表の旦那さんが、昔KOA森林塾に通っていた話しを思い出して。ホームページを見たらちょうど募集中だし、農閑期に白馬のスキー場で貯めたお金の残りで通えそうだったから思い切って申し込んでみました。

世の中を甘く見すぎているかもしれないですが、KOA森林塾で学んだ事を生かし将来の夢をかなえる第一歩にして、今度は日本や海外の森や自然環境をもっととつと学んで多くの人に伝えていきたいな、なんて思っているのです。森の事はもちろん森以外の事でも教えていただきたいです。他の参加者の皆さんより人生経験が少ないですが、皆さんに負けないよう、そして足を引っ張らないよう頑張つて、森について多くの事を学びたいと思ひます。よろしくお願ひします。

初めまして。私は駒ヶ根市在住の主婦です。駒ヶ根といえはアルプスがふたつ映えるまち。我が家は南アルプスが一望できるところにあり、家の周囲には一町歩余の田と家庭菜園にはやや広めの畑があります。その田畑の管理を一手に引き受けていた義父が二年ほど前に亡くなり、田んぼは近くの農家の方に作ってもらうことになりましたが、土手の草刈りと畑作りはほとんど私の仕事になりました。後継ぎと称する夫は中小零細企業であくせく働くサラリーマン。家のことは全く眼中にありません。

リレー通信

ちょっと生き方を
変えてみたくなって

大槻 重子

この三月まで、私も小中学校の養護教諭(別称 保健室のオバサン)としてその道一筋に勤めてきました。とてもやりがいのある仕事で、このように途中で辞めるなんて思



わけですから。しかしながら、家族の反応は意外と冷静でした。これまで心身ともに一杯いっぱい状態だったことを薄々感じてくれていたのでしょうか。それとモ・・・?

いもせずずっと働き続けてきました。義父が亡くなり、荒れ果てていく田畑を見るにつけ、それまでほとんど見て見ぬふりをしていた自分を反省し、このままではいけない、私が何とかしなければと思うようになりました。

しかし、休日になんか手をつけてみても、とても追いつくような量ではなく、ちよつと頑張ると筋肉痛で月曜日を迎えることの繰り返し。このまま好きなこともできずにこの先何年も働き続けるのかと考えるうちに、次第に虚しささえ感じるようになりまし。結局家のことに重きを置いて、外で働くのはフルタイムからパートタイムに切り替えることにしました。何年か悩んだ末の決断でした。パートタイムに切り替えた。パートタイムに切り替えるとはいつても表向きは退職です。ですから周囲の驚き様は大変なものでした。当然です。ね。このご時世、安定した職種の公務員を辞めてしまっ

た。そんななかで、今は毎日お天気をみながら、畑に少しづつ野菜や花の種を播いては芽が出るのを楽しみに見守ったり、田の面積に匹敵するかと思われるほどの広大な土手の草刈りに着手したりと、時間に追われることなくゆったりと過ごしています。パートの仕事はぼつぼつと負担にならない程度にやっています。でももう少し現金収入がほしいかな?年金ももらえるまでにはまだまだ何年もかかりますし。

「森を守らなければ・・・」
小学校で臨海学習に付き添った時のこと、夜、宿舎で子どもたちが島の漁師さんからお話を聞く機会がありました。海の学習です。その中でもとても興味深かったのは、海の環境(水質)を守るために漁師さんたち自らが山の手入れや植林に向いているというものでした。かつて大漁だった魚介類がいなくなり、その原因をたどっていったところ、海に注ぐ河川の水質が大きく影響していることが判ったからだそうです。地球規模のグローバルなお話で、子どもたちはどの程度理解したか分かりませんが、少なくとも私は、信州の山の中に呑気に暮らしていて、ただ下水道が整備されて汚水を流さなくなっただけからOKと、手放しで喜んではいられないことを痛感しました。



また、数年前に起こった大水害の後、砂防堰堤の工事現場を視察させていただく機会がありました。そこで、山を守るためにはどんな種類の木を植えばよいのか、また、植えた後の管理がいかに大切かなどお聞きすることができました。歩くことが好きで各地に出かけますが、植生には結構興味をもつて見るようになりました。

「森林塾への想い」
そんなこんながきつかけで、今回の申し込みとなりました。今までの森林塾通信を讀ませていただいたところ、鳥崎先生のご著書「山造り承ります」をきっかけに参加されている方が多いようすが、私は「おーい、山へ行こうよ」KOA森林塾十年、に寄せられた多くの参加者の皆様の声(感想や人生観)に魅せられて森林塾に興味を持ちました。その本の表紙の写真が女性であったことも私の心を動かしました。山仕事「男の仕事のイメージ」からの脱却、私にも何かできることがあるかな、と。

しかしながら、林業については知識も技術もほとんど持ち合わせていません。ついていけるか心配もありますが、何とか一年頑張つて森をみる目を養い、ナタの使い方くらいは習得したいと思つています。何卒よろしくお願い申し上げます。

別名は木藤ともよばれています。その姿が藤の咲く様子に似ているところから来ているみたいです、花材としても良く使われています。漢名の木五倍子は、昔、実がヌルデの虫えいで作るお歯黒の代用品として使われた事に由来しているそうです。

この木の花が終わって、葉っぱだけになってしまつと、あれ?なんだつたつてと言つくらいほんとうになんの変哲もないような、特徴のない木になってしまいます。葉は卵状楕円形で、葉の縁には鋸歯があり、葉の先端は尾状に鋭く尖つています。葉脈は羽状脈です。このきぶしの葉は、地域的な変異が多く、葉の大きさや果実の形や大きさも地域によって違うそうです。普通、葉裏には毛がありますが、時に無毛の物もあつたり、特に枝の基部につく葉の裏面毛が有毛だったり、微毛、或いは無毛だったりさまざまなようです。

初めてこの樹に私が出会ったのは、森林塾で樹木分類をした時で、こんな玉簾みたいに咲く花があるんだ、まるで花の雨みたいだな、と思ひました。淡い黄色の小さな花はとても可愛らしく、繊細な印象で、花びらの手触りがしつとりとしていて、気持ちよかつたのを覚えています。

「森」
今年も安全第一で、一年間よろしくお願ひ致します。

「あわりに」

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

